

1 自己評価結果に対する評価

〔自己評価の評定は、A(十分に成果がみられた)、B(成果がみられた)、C(成果があまりみられなかった)、D(成果がみられなかった)の記号で表すこと〕

評価領域	本年度の重点目標	具体的取組(具体的な指標等)	自己評価		学校地域連携運営協議会の意見	来年度に向けて(改善方策等)
			評定	成果・課題		
主体的な学び	「自ら課題をもち、学び合いを通して考えを広げ、深める子」 (1) 多くの教職員による学習支援 (2) 少人数指導等の充実 (3) ICTによる教育活動の充実 (4) 校内研究における対話的な活動を生かした各教科等における学力向上	(1) 教員の専門性を生かす一部教科担任制の継続実施 (「わかりやすい」児童 90%以上) <学校評価> (2) 算数を中心とした少人数指導の充実 (「わかりやすい」児童85%以上) <学校評価> (3) ア ICT機器の利活用(教職員80%以上) <学校評価> (3) イ「わたしは、学校でコンピュータやタブレットを使った学習を、わかりやすいと思う。」 (児童85%以上) <学校評価> (4) ア「話し合いによって、自分の考えが広がったり、深まったりすることができている。」 (児童80%以上) <校内研究> (4) イ「必然性のある学習のめあてを設定し、学習過程を明確にして、授業展開する。」 (教職員95%以上) <校内研究> (4) ウ「国語科以外の教科や各種教育活動において年間を通じて目的を意識した話し合い活動(対話)を積極的に取り入れ、実践する。」(教職員80%以上) <校内研究>	B	各項目の具体的な指標について、肯定的回答 (「そう思う」「ややそう思う」)は次のとおり上 回った。 □(1)(2) 一部教科担任制や少人数指導の 取組について、ほとんどの保護者から肯定的 回答を得た。(順に、98%、99%) □(3)ア 教職員のGIGA端末や大型提示装 置、メディアセンター等の活用が校内研究の 授業だけでなく、日常の活用にも発展。 □(1) 教科担任 児童90% 保護者98% □(2) 少人数指導 児童88% 保護者99% □(3)ア ICT活用 教職員92% □(3)イ PC等による授業 わかりやすい 児童91% □(4)ア 考えを広げ、深める 児童85% □(4)イ めあての設定 教職員100% ■(4)ウ 対話を意識した実践 教職員77%	少人数学習や習熟度学習、教科担 任制を行うことで、勉強を難しいと感じ ている子供たちにとって、とても大 切な取り組みであると思う。 これからの社会はデジタル技術や情報 ネットワークの利用があたりまえに なる中で、メディアセンターやタブレッ ト端末を活用した学習は、子どもたち にとって必須である。引き続き、充実 させてほしい。	多くの教職員による学習支援 ・一部教科担任制の導入 ・少人数指導等の充実 学習支援室および校内支援教室 (新設)の効果的な活用 ICT教育の充実 ・メディアセンター・タブレット端末の 効果的な活用 「学年・教科支援教員」の効果的な 活用
自他を尊重する心	「自他を認める温かい心をもつ子」 (1) 自己有用感の醸成 (2) 異学年交流の充実 (3) 特別支援学級と通常学級の交流	(1) 児童が自分のよさや進歩を自認できるようにする場・評 価の工夫 (1)ア「先生は…よいところを認めてくれている」(児童 85%以上) <学校評価> (1)イ「自分にはよいところがある」児童 85%以上 <学校 評価> (2)ア「自分の考えを進んで発表したり、友だちの考えを受け 止めたりし、新しい考えに気付いたりすることができる」。 (児童75%以上) <校内研究> (2)イ(3)「誰に対しても優しく接している。」(児童80%) < 学校評価> (3) 特別支援学級各児童1教科以上の交流	B	□ 教職員からの肯定的な言葉掛けで、児童 の自己有用感が引き続き高まる傾向がみられ た。 □(1)ア「(先生は)よいところを認めてく れている」児童87%・保護者95% □(1)イ「よいところがある」児童86% □(2)「自分の考えを進んで発表したり、友 だちの考えを受け止めたり」児童80% □(2)イ(3)「誰に対しても優しく」 児童84%・保護者92% □(3)11名全員 朝の会および各教科の交流	「先生がよいところを認めてくれている」 「浦安小学校の先生は、わたしに声 をかけてくれたり、心配してくれたりし ている」 の2項目について、児童・保護者とも に肯定的回答が高いところが浦安小 学校のよいところであると感ずる。	子どもたちが「いつでも相談できる」 と思えるような環境の整備 ・校内支援教室の新設 自らの目標を明確にして体力・運動 能力の向上に取り組む行事・活動の 充実
健やかな体	「自分を信じて挑戦する子」 (1) 自らの目標を明確にして体力・運動 能力の向上に取り組む行事・活動の充実 (2) 体験活動の充実 (3) 各学年における「いのちの教育」の 実施	(1) 児童が主体的に挑戦することができるようにする場つ くり・支援の工夫 (1)ア「自分を信じて挑戦している」(80%以上)(1)イ「粘 り強くなろうとしている」80%以上) <(1)アイ共に、学校評価> (2)(3) 食育、体力の向上、安全、心身の健康に関する指 導を各教科等の特質に応じた適切な実施(各テーマについて 複数学年で実施) (3) 外部講師による授業 5年生対象に実施予定	B	(1) 個人による挑戦として「マラソン記録 会」11/26、チームによる挑戦として「長縄縄技 会」1/15・同「記録会」2/12等を実施 ■(1)ア「挑戦」児童79% □(1)イ「粘り強さ」児童81% □(2)(3) 様々な体験活動の場を設けた。 (外部講師を発掘した授業 全学年でのべ50 回) イ 食育(1・5年)、体力の向上(マラソン・長 縄記録会 全学年、スポーツ教室 4・5・6年)、 安全(交通 1・3年、防犯 1年、生活・災害 3 ～6年)、心身の健康(がん予防・薬物乱用防 止 6年)等 □(3) 12/12に実施	体験活動や外部講師による授業が 充実していてよいと思う。 保護者や地域の方も一緒に話を聞く ことができるとさらによいと思った。	体験活動や外部講師による授業の 公開 体験活動の充実 ・地域の人材活用

<p>豊かな かかわり</p>	<p>「様々な立場の人と積極的にかかわる子」 「人を大切にできる子 地域を大切にできる子」 (重点目標) (1) 異学年交流の充実(再掲) (2) 特別支援学級と通常学級との交流(再掲) (3) 地域との交流活動の充実</p>	<p>(1)(2) 学習活動や各種行事における異学年や特別支援学級との交流の計画的な実施 (1) 「交流の日」年間5回 (2) ア なかよし学級児童全員の日常的交流 (2) イ 「誰に対しても優しく接している」85%以上<学校評価> (3) 地域の教育力を生かした積極的な交流、連携による体験活動の充実 「地域の行事や活動に進んで参加」(67%(3人に2人)以上)</p>	<p>B</p>	<p>(1)(3) 「交流の日」等、高学年が下学年に対し、優しく接したり楽しく遊んだりする姿が随所でみられる。地域での活動に課題がある。 (1) 「交流の日」年間4回実施 (2) ア 当該学級の日常的交流 11名全員が実施(朝の会および各教科にて) (2) イ 「誰に対しても優しく」児童84%・保護者92% (3) 「地域の行事や活動に参加」児童57%、保護者68%</p>	<p>浦小の子どもたちは、学年が違っても顔見知りが多いので、とてもやさしい子どもが多いと感じる。子供会もそれぞれの地域で活動を頑張っているの、行事の呼びかけ等で、学校とさらに連携していきたい。</p>	<p>異学年交流の充実 ・「交流の日」の一層の充実 特別支援学級と通常学級の交流 地域との交流活動の充実</p>
<p>凡時徹底</p>	<p>「あたり前のことが あたり前にできる子」 (1) 「浦安っ子のあたりまえ」の徹底 (2) 「浦小学びのルール」の徹底 (3) 挨拶運動等の実施</p>	<p>(1) 「浦安っ子のあたりまえ」が定着するような毎月の振り返り、翌月の目標の設定と取組 (ア「自分から進んで挨拶」イ「時間を守って行動」ウ「話をよく聞く」エ「(困っている人を)進んで助ける」オ「一生懸命掃除」各85%以上 (2) 「学びのスタンダード」の確実な実施と振り返り(振り返り年2回、「意識して」100%) (3) 児童委員会で、朝の挨拶運動を毎学期実施</p>	<p>B</p>	<p>(1) 「掃除」「話をよく聞く」「一生懸命掃除」の児童の意識は目標値以上、「あいさつ」「話をよく聞く」は上昇傾向、「掃除」は下降傾向。改善が必要。 ■ア 「進んで挨拶」児童82%・保護者75% ■イ 「時間を守って」児童78%・保護者73% □ウ 「話をよく聞く」児童91% ■エ 「誰に対しても優しく」児童84%保護者92% □オ 「掃除」児童90%・「整理整頓」保護者55% (2) 教職員「学びのスタンダードを意識して授業」96%(「そう思う」48%、「やや」48%) (3) 通年で、週4日間実施</p>	<p>学習のあたりまえとして、読書の習慣はとても大切だと思う。ボランティアによる読み聞かせ活動も継続していくが、子どもたちが自分自身で本を読む時間も確保してほしい。</p>	<p>上学年の朝学習(モジュール時間)および下学年の朝活動の計画的な運用・効果的な活用</p>
<p>小中連携</p>	<p>「夢に向かって自分を磨き 地域の未来を切り拓く子」 (1) 園児と児童の交流 (2) 児童と生徒の交流 (3) 教師と教師の連携</p>	<p>(1)~(3) 本中学校区グラウンドデザインによる連携した指導の継続 (1) ア 「中学校区の園小中と連携して諸活動を進めている。」(保護者85%以上)<学校評価> (1) イ 「園小や小中の連携や系統性を意識して授業や生徒指導を行っている。」(教職員80%以上)<学校評価> (2) 浦安中学校をはじめ、中学校の行事等参加 (3) 「うらやす園・小・中連携の日」における情報共有(対面式による実施)</p>	<p>B</p>	<p>□(1) 「園小中と連携して諸活動」ア 保護者95% イ 教職員95% □(2) 浦安中学校区以外との連携メディアセンターを活用(入船小・入船中・他県の小学校)なかよし学級(富岡小・富岡公民館、浦安中) □(3) 8月21日4校6園が参集型で実施(10分科会)</p>	<p>若草認定こども園は園児の数が減ってきている。こども園と小学校の連携をさらに深めていき、こども園の方でも取組をPRしていきたい。</p>	<p>若草認定こども園を中心とした近隣の園や他学年との交流活動の充実 浦安高校を含めた浦安中学校区との交流</p>

2 授業、行事、施設等に関する学校地域連携運営協議会の意見・感想

- ・3年間の学校評価の結果をみて、数値に大きな変動がないということは、学校が安定している証拠である。
- ・学校支援コーディネーターによるボランティア活動を、来年度は児童の委員会活動と連携させていきたい。
- ・PTAや子ども会の在り方も、浦安小学校ではだいぶ変化してきた。時代の変化に合わせた運営を次年度も考えていきたい。